

留 学 報 告 書

記入日:2020年1月5日

所属学部／研究科・学科／専攻	経営学部経営学科
留学先国	シンガポール
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: シンガポール経営大学 現地言語: Singapore Management University
留学期間	2019年8月～2019年12月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2019年12月11日
明治大学卒業予定年	2021年3月
留学先大学について	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:8月中旬～12月上旬 2学期:1月上旬 4月下旬 3学期: 4学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	8656人(2019年9月時点の学部生数)
創立年	2000年

留学費用項目	現地通貨 (1SGD=79円 計算)	円	備考
授業料	0	0円	交換留学のため
宿舍費	4,400	347,600円	1100SGD×4カ月
食費	1,500	118,500円	374SGD×4カ月
図書費	440	34,760円	教科書、その他参考書等
学用品費	0	0円	図書費に含めて計算した
携帯・インターネット費		24,000円	Simカードの代金+データ料金
現地交通費	400	31,600円	100×4カ月(<input type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	0	0円	
被服費	290	22,900円	
医療費	0	0円	
保険費	410	32,435円	形態:ベーシックプラン
渡航旅費	2,492	196,900円	
ビザ申請費	367	29,000円	
雑費	633	50,000円	
その他		円	
その他		円	
合計	10,932\$	887,695円	実際に使った額を日本円基準で計算して、そのまま記載しています。住居費、渡航旅費は価格を重視して選択すれば、もう少し安価に留学が可能です。(1SGD=79円で計算しました。)

渡航関連

渡航経路

往路 出発地:羽田国際空港 目的地:チャンギ国際空港 経由地:
 復路 出発地:チャンギ国際空港 目的地:羽田国際空港 経由地:

渡航費用

①往復チケットを購入した場合

航空会社: _____

料金: _____

②片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社:シンガポール航空 料金:108,307 円

復路 航空会社:全日空 料金:88,530 円 ∴合計:196,837 円

航空券購入方法

旅行代理店(店名: _____) インターネット(サイト名:エクスぺディア) その他(_____)

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)

学生寮(寮の名前: _____) アパート ホームステイ

2)部屋の形態

個室 相部屋(同居人数 _____)

3)共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4)住居を探した方法:

テナントを募集しているウェブサイト

5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

シンガポールで良い住居を見つけるのは、簡単ではなく、ある程度時間を割いた方がいいと思います。僕が滞在先の場所は、周りの人たちと比べてもかなり良い物件でしたが、そのような物件は簡単には見つかりません。できるだけ多くの募集者と連絡を取ることができればよい物件が見つかると思います。なんとなく寮を選択してしまわないというのも重要なポイントです。

現地情報

1)留学期間中、病気やケガをされましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院, 学内の診療所)

なし
 あり(治療を受けた場所: _____)

2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例:留学先大学の相談窓口, 現地の友人等)

なし
 あり(問題の内容や相談した人等: _____)

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

結論から言えば、シンガポールはとても安全です。外務省のホームページもよい情報源だと思いますが、国内のどのエリアが比較的危険かということに関しては、大学で現地の学生に聞けば教えてくれると思います。シンガポール国内は日本と同等に安全なので、マレーシアやインドネシアなど隣国に出かける際の注意が一番重要だと思います。

4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

大学の Wifi はとても速く、混雑時も機能していました。また、街の至る所にセキュリティの高い Wifi が飛んでいるので、それも便利です。

5)現地での資金調達はどうに行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地で口座を作り、日本から送金してもらいました。現地で口座を作るためには、ビザ、パスポートのほかに“居住証明”が必要です。賃貸借契約書のようなものも有効で、居住証明を大学で発行してもらうこともできます。

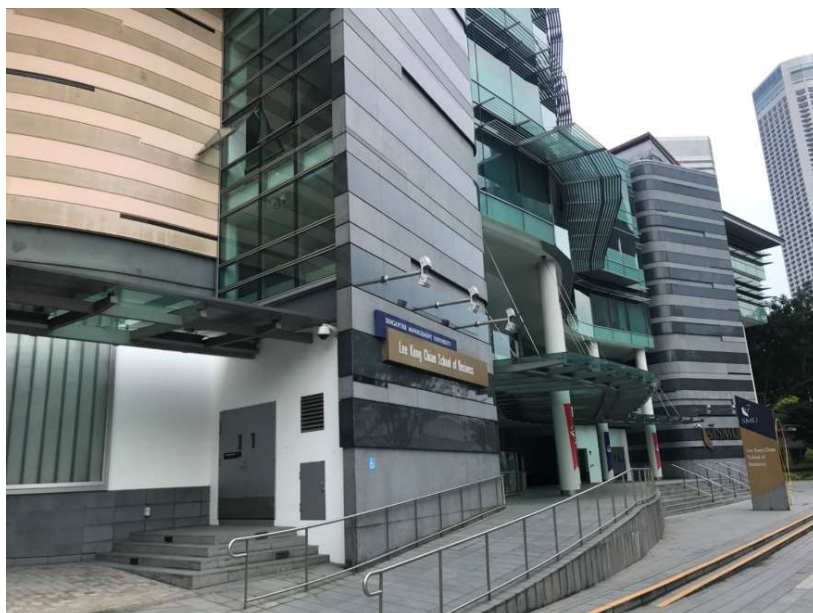
6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

変圧器は個数を用意しておくか、延長コードのようなものを用意していた方がいいと思います。例えば、朝、携帯を充電しながら、ドライヤーを使い、パソコンを充電するようなことがあれば、変圧器が一つだけだと足りなくなります。

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)	
1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
3 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 成績証明書が届いていないので、まだ申請できません。単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() ・履修の制限はありましたか? Prerequisite の制度があるが、基本的に制限はない。	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Strategy	戦略
科目設置学部・研究科	Lee Kong Chiang School of Business
履修期間	1 学期間
単位数	1 単位
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1 週間に 195 分が 1 回
担当教授	Terence Fan
授業内容	経営戦略論と呼ばれる分野に関する総合的な授業です。 This course introduces students to the theoretical concepts and analytical tools required for formulating and implementing appropriate strategies that affect the enduring success of the entire organization. Topics covered include external and internal environmental analyses, business-level strategies, corporate-level strategies, competitive dynamics, and special topics such as global strategy. This course emphasizes the application of theory to the real world strategic issues. Students are encouraged to synthesize knowledge from other business courses into a comprehensive understanding of competitive advantage.
試験・課題など	主要な課題は 2 つで、個人レポートとグループプレゼンテーションです。個人レポートは、Harvard Business School のケースを読み込み、分析と提案をまとめて提出します。グループプレゼンテーションは、シンガポールで業務を行っている企業を選び、その企業の分析と全社戦略に関する提案を行うといったものです。個人レポートは、まだ簡単な方ですが、グループプレゼンテーションは、自由度が高い故に課題設定が難しく、自分には少し難易度が高すぎるかなと思いました。最終試験も難易度が高く、準備には大体 3 日間を費やしました。
感想を自由記入	求められる課題の難易度が高く、苦勞しました。ですが、期末試験もウェイトが高いので、多少挽回することができました。評価基準は以下の通りです。 (1) Class participation (in-class only) 20% (2) Detailed case analysis & recommendation 10% (3) Group project 30% (4) Final examination 40%

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Marketing	マーケティング
科目設置学部・研究科	Lee Kong Chiang School of Business
履修期間	1 学期間
単位数	1
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1 週間に 90 分が 2 回
担当教授	Seh Woong Chung
授業内容	<p>マーケティングに関する総合的な授業です。</p> <p>The course introduces Marketing as both a professional and an academic discipline. As a profession, marketers identify consumer needs, determine which target markets to serve, and develop an optimal product, pricing, promotion, and distribution strategy that best satisfies consumer needs, relative to competition. Marketers serve a vital role in the long-term success of all organizations, profit-oriented as well as not-for-profit, small as well as large. Academically, marketing is a multi-disciplinary field involving the concepts, theories and methods used to understand exchanges and long term relationships between buyers and sellers. Through a combination of lectures, discussions, videos, individual and group assignments and case analyses, the course is designed to cover the basic concepts and principles of this challenging field. It is a required basic course for marketing majors, but it complements the theories and skills taught in many of the other majors at SMU.</p>
試験・課題など	<p>上記の Strategy で書いたような Harvard Business School のケースでマーケティング分野に関するもののレポートを書きます。Strategy との違いはグループでレポートを書くという点ですが、他のメンバーとの調整に大変苦労しました。HBS の課題とは別のメインのグループ課題では、レポートを作成し、その内容を説明する動画を作成したのですが、その編集に時間がかかり、少し大変でした。</p>
感想を自由記入	<p>この授業は、課題に費やす時間が多いものの、内容自体は難しくありませんでした。グループワークでは、自分に多く仕事が割り振られた結果、オーバーワーク気味にはなりましたが、最終的にはすべての課題を良いクオリティーで完成させることができとても満足しています。またこの授業のグループワークには都内の大学からの日本人学生がもう一人いたので、彼がグループ内にいてくれたことも異文化の状況下では心強かったです。尚、成績評価基準は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) Class participation (in-class only) 20% (2) Detailed case analysis & recommendation (one to be done at home) 10% individually (3) Group project 30% (4) Final examination 40%



履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introduction to Organizations		組織論基礎	
科目設置学部・研究科	Lee Kong Chiang School of Business		
履修期間	1 学期間		
単位数	1		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1 週間に 195 分が 1 回		
担当教授	Adrew Chin		
授業内容	<p>組織論という分野に関する初歩的な授業です。</p> <p>This course aims to equip students with skills to understand challenges facing organizations and how elements of organization design relate to these challenges. This is done through a systematic review and analysis of the research on organization theory and design. Familiarity with this research and the insights it offers will better prepare students to both operate effectively in various types of organizations as members and better direct and guide these organizations as managers or leaders.</p>		
試験・課題など	<p>個人レポートとグループプレゼンテーションが主要な課題です。個人レポートについては、シンガポールの企業が題材となることが多いので、少し現地の学生が有利な印象を受けました。一方で、グループプレゼンテーションでは、シンガポール国外の企業を取り扱うことが多いため、留学生にとって公平感がありました。基本的には、組織論の視点からの分析や提案が求められるため、抽象的な授業内容の正確な理解が求められます。</p>		
感想を自由記入	<p>組織論という分野に関する初歩的な授業です。ただ、組織論は本来奥が深いので、簡単に教えようとする、抽象的になり、説明に必要な具体例が消え、余計分りにくくなるという授業でした。ですが、1 学期間で 2 回あるゲスト講座は、BCG のマネージングディレクターが担当するなど、とても勉強になりました。成績評価基準は以下の通りです。</p> <p>(a) Class participation: 10%</p> <p>(b) Individual projects: 15%</p> <p>(c) Group project: 25%</p> <p>(d) Quiz 15%</p> <p>(e) Final examination: 35%</p>		



卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に活用したウェブサイト, 書籍, 機関など

日系電子版はお勧めです。就活以外でも、留学中は日本の情報が手に入りにくいので、NHK のホームページからニュースにアクセスするなど、工夫が必要だと思います。

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前,あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界, 職種等を教えてください。

2020 年 1 月現在就活中です。コンサルティングやシンクタンクに興味があります。しかし、透明性が高く、労働環境が良好な企業で、なおかつ、物事の再検討が常に許される職種であれば、業界に関係なく興味があるというのが率直な心持ちです。なので、これから応募する企業を絞り込むのに苦労すると思います。外資系のコンサルティングファームは国外に出ている留学生向けの遅めの募集枠も僅かながら設けているので、1 社のみですが応募を検討中です。日経のファームは留学前に予定していた通り応募します。また、元々経営学系統の研究職を志望しているため、進学も一つの選択肢として残しています。これから留学される方々が就活をする頃には、今より更に通年採用を行う企業が増えていると思うので、過度に心配する必要はないというのが個人的な意見です。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例:留学中の就職活動へ向けた準備, 帰国後に就職活動が始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

日本で行う就活に関しては、留学のタイミングによっては少し出遅れ気味になることもあるかもしれません。しかし、シンガポールには実際に内定が出るキャリアフォーラムも一応存在します。Amazon、EY、IBM といった有名企業など、多くの企業がシンガポールでの採用活動を行っています。私の場合は、準備ができていなかったため、それらの機会を有効に活用することはできませんでした。しかし、私の知っている日本人留学生の中では、シンガポールに滞在し、学業生活をこなしながら、ポストキャリアフォーラムまで足を運んだ方もいるので、その人の能力や、やる気次第でいくらでも方法はあるという結論になります。また具体的な企業名を挙げることは差し控えますが、日本の商社や金融機関がシンガポールで留学中の日本人学生に直接コンタクトをとってくるようなケースも実際に見られました。おそらく、採用活動を行っていると思われます。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備, 試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。



留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備, 試験勉強, 留学中, 留学後, 特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例: 語学試験の勉強, 選考, 出願, ビザ申請・取得, 航空券購入, 予防接種, 滞在先の確保, 留学中の中間試験, 期末試験, その他イベント等

2018年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	10月 Toefl 受験 11月 出願 12月 面接試験 12月中旬 結果発表
2019年 1月～3月	
4月～7月	学部生が履修できる大学院の授業履修 渡航前オリエンテーション、航空券購入、ビザ申請、滞在先確定
8月～9月	8月初旬 留学先到着 8月19日 授業開始 9月30日から10月初旬 中間試験
10月～12月	12月 期末試験 12月中旬 帰国
2020年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記(任意)

この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

私がシンガポール経営大学に留学をしようと思ったのは、経営学に関する理解を深め、自分が明治大学で身に付けた知識や協働作業における姿勢が海外でも受け入れられるか、試してみたいという気持ちからでした。実際、私が今まで学び身に付けてきたと思った知識や方法は、通用する部分もありましたし、全然歯が立たない部分もありました。なので、私の留学を当初の目的に照らし合わせて採点すると、せいぜい 65 点くらいにしかならないと思います。しかし当然ですが、留学は学問だけに関するものではありません。自分の留学生活には、他の多くの留学生がそうであるように、人との関わり合いという側面がありました。そんな中で私は、留学を通して出会う事のできた人々に心から感謝し、また彼らとの経験を大切に思うことができました。これは、恥ずかしながら、今までどこか自己中心的に生きてきた自分にとっての大きな発見であったと思っています。短い体験記ですが、まとめると、"留学する目的は人それぞれだが、留学によって得られる結果は、それを享受する機会を与えられた多くの人々にとって有益である"という事になります。これが今回の留学体験記における私自身の結論であると同時に、留学を志す方たちに向けてのささやかな助言となることを願います。

以上は、私の主観的な感想を述べただけのものなので、もっと具体的な情報が必要な方はご連絡ください。

2015 年度同じ留学先に渡航された先輩にならい、私の連絡先も以下に記させていただきます。

eg170541@meiji.ac.jp

